

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03016

研究課題名(和文) グローバル教育の視点から考えるリンガフランカとしての英語教育の可能性

研究課題名(英文) Teaching English as a Lingua Franca - An Approach to Develop Global Citizenship

研究代表者

生田 祐子 (Ikuta, Yuko)

文教大学・国際学部・教授

研究者番号：50275848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本人大学生がリンガフランカとしての英語(ELF)・グローバルリタラシー(国際教養と対話力)・WIC(Willingness to Communicate)を強化するための手段として、英語模擬国連や国際協働オンライン学習(COIL)の有効性を調査した。過去6年間のデータを基に、Focus Group Interview (FGI)とアンケートを活用して情報を収集した。結果は次の通りである：1) 学生は英語使用時に内容を伝えることに重点を置き、英語の使用態度に変化が見られた。2) 学生は相手の英語力に応じて問題を解決するための言語戦略を試みた。これらは英語教育における新たな視点を提供する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語をリンガフランカとして認識することで、日本の英語教育の視点を変革する意義を持つ。英語母語話者を目標や基準にする従来の観点から、より包括的な視野、すなわちグローバル英語使用者としての視点へとシフトさせる可能性を示している。この視点の変化は、英語教育の実践と理論における新たな枠組みを提供し、社会的にも更なるグローバルコミュニケーションの可能性を広げることができる。

研究成果の概要(英文)：This research evaluated the impact of educational activities like English Model United Nations and Collaborative Online International Learning (COIL) on improving Japanese university students' English literacy and communication. Analyzing six years of data, it found: 1) Students' English use shifted towards prioritizing content communication, and 2) They employed linguistic strategies based on their counterpart's English proficiency. These findings offer fresh insights into English education in Japan.

研究分野：英語教育

キーワード：英語教育 リンガフランカとしての英語 グローバル教育 模擬国連 グローバルシティズンシップ教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 文部科学省が 2016 年に公表した「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」に基づき、英語のリンガフランカ (ELF) としての教育の重要性を認識。本文書では、小学校から大学までの英語教育の連携の必要性が示され、グローバル化に対応した英語教育改革と英語 (ELF) 教育の結びつきが強調されている。
- (2) 大学における英語教育の課題として、多様な価値観を持つ人々と効果的に協働できる人材の育成が挙げられる。
- (3) 模擬国連活動は、実際の国連会議を模倣し、英語で意見交換、交渉、政策提言を行うことで、高度な英語コミュニケーション能力の習得と異文化理解を深める機会を提供する教育活動として期待される。

## 2. 研究の目的

- (1) 模擬国連などの異文化体験を伴う言語習得の機会を通じて、日本人大学生が英語とグローバルリタラシーを習得し、コミュニケーション意欲 (Willingness to Communicate=WIC) を向上させる教育活動の効果を検証する。
- (2) 模擬国連への参加を通じて、学生が英語の多様性を理解し、リンガフランカとしての英語 (ELF) 使用を経験できるか、また、模擬国連活動が英語のコミュニケーション能力、特に明瞭さと聴く力にどのような教育効果をもたらすかを調査する。
- (3) 模擬国連などの教育活動が異文化への感受性 (intercultural sensitivity) や気づく力をどの程度高めることが可能かを調査する。

## 3. 研究の方法

- (1) シティズンシップ教育と外国語教育 (Byram 2016, Starkey, 2023) リンガフランカとしての英語教育 (Ikuta, Takahashi & Kitamura, 2021) の概念と教育理論を中心に文献研究を行った。
- (2) 2017 年から 2022 年までの日本大学英語模擬国連 (JUEMUN) 参加者を対象に、半構造的インタビューとフォーカスグループインタビュー (FGI) による質的調査を実施。最終年度では、参加者へのアンケート調査も行った。また、2020 年度と 2021 年度には JUEMUN がオンラインで開催され、2022 年度には対面形式に戻った後、日本人参加者とインドネシアの学生との間でオンラインの国際協働学習 (COIL) を実施し、対象者に対する事後アンケート調査も行った。

## 4. 研究成果

- (1) JUEMUN に参加した調査対象者において、母語話者を基準とする正確な言語の発話を意識することよりも、伝えるための意識を持つことにより、英語使用に関して姿勢に変化が見られた。特に多様な英語話者への傾聴と、発話において明瞭さを意識する傾向が見られる。
- (2) 学生たちは対話する相手の英語力によって生じる問題を解決するために、質問と傾聴のスキルを工夫していることが確認された。
- (3) 英語話者の多様性に対する寛容性が、多言語話者間の相互理解を促進することが明らかになった。模擬国連は、日本人大学生が母語背景の異なる英語話者と出会い、自身がリンガフランカとしての英語 (ELF) を使用する経験を積むとともに、英語発信力、特にコミュニケーション意欲 (WTC) を高める有効な教育活動であると考えられる。

(4) 2020 年度と 2021 年度は、COVID-19 感染防止対策として、JUEMUN をオンラインで実施。2022 年度は対面形式に戻り、その後、JUEMUN に参加した日本人学生とインドネシアの学生との間でオンラインの大学間会議を実施し、対面とオンラインにおける学習エンゲージメントの違いを調査した。オンラインでの活動は学生の学習エンゲージメントを高め、対面形式に比べて高い効果が得られる可能性があることも明らかになった。

(5) 英語模擬国連活動やオンライン大学間学生会議は、多様な言語話者が集まり、英語を ELF として使用して議論・交渉する国際社会を体験できる学習コミュニティ(Community of Practice=CoP)であることが確認できた。

## 引用文献

Byram, M. (2016) (Ed) *From Principles to Practice in Education for Intercultural Citizenship, Multilingual Matters*

Ikuta, Takahashi, and Kitamura (2021) *Promoting Intercultural Sensitivity and Awareness of English as a Lingua Franca through the Practice of Model United Nations*, in Tatsuki & Zenuk-Nishide (2021) (Eds.) *Model United Nations and English as a Lingua Franca*, Cambridge Scholar Publishing

Starkey (2023) *Challenges to Global Citizenship Education: Nationalism and Cosmopolitanism*, in Lutge, Merse and Rauscher (Eds.) *Global Citizenship in Foreign Language Education: Concepts, Practices, Connections*, Routledge Studies in Language and Intercultural Communication, Routledge

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Fujimura, K. & Ikuta, Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 How Do Intercollegiate Zoom Conferences Impact Student Learning?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 the JACET 60th Commemorative International Convention(Proceedings)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 生田祐子	4. 巻 -
2. 論文標題 DX時代における持続可能な海外教育研修を目指して-ニューヨーク国連研修オンライン実践と参加学生の動向分析-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育研究所紀要（文教大学）	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Reiko Takahashi	4. 巻 26(1)
2. 論文標題 Attitudes of Japanese learners of English towards English users in ELT textbooks	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Language Teacher	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 秋本桃子 阿部秀尚 生田祐子 森田武史 山口高平	4. 巻 1
2. 論文標題 教師業務ルール分析に基づく対話型ロボットを用いた発音練習の実装と評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 情報教育シンポジウム	6. 最初と最後の頁 185-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Kitamura	4. 巻 Vol.16 No.1
2. 論文標題 Challenges Being in the Field as a Qualitative Researcher-Building Rapport-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Journal of Engaged Pedagogy	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村優子	4. 巻 39巻 3号
2. 論文標題 英語教育研究のためのフォーカスグループインタビュー-学修者の声より課題を分析する-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長野大学紀要	6. 最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Yuko Ikuta & Reiko Takahashi
2. 発表標題 A Study of Expected Standard of ELF in International Communities
3. 学会等名 World Congress of Applied Linguistics 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kenji Fujimura & Yuko Ikuta
2. 発表標題 How Intercollegiate Student Zoom Conference Impacts Students Learning?
3. 学会等名 the JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Ikuta & Reiko Takahashi
2. 発表標題 A Study of Expected Standard of ELF in International Communities
3. 学会等名 World Congress of Applied Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kenji Fujimura & Yuko Ikuta
2. 発表標題 How Intercollegiate Student Zoom Conference Impacts Students Learning?
3. 学会等名 the JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Ikuta, Yuko Kitamura
2. 発表標題 Promoting the awareness towards English as a lingua franca and intercultural sensitivity through JUEMUN(Japan University English Model United Nations)
3. 学会等名 Global Negotiation Symposium 2019@Kobe City University of Foreign Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村優子
2. 発表標題 グローバル教育の視点から考えるリンガフランカ(共通言語)としての英語教育: 大学英語模擬国連参加学生の事例から
3. 学会等名 関係性の教育学会第17回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Ikuta, Reiko Takahashi, Yuko Kitamura
2. 発表標題 Sociolinguistic inquiries to promote language awareness/respect for ELF (English as a Lingua Franca) speakers who use different English varieties who use different English varieties
3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 22 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Ikuta
2. 発表標題 How can Model United Nations promote the awareness towards English as a lingua franca and intercultural sensitivity?
3. 学会等名 International Conference of Educating the Global Citizen: International Perspectives on Foreign Language Teaching in the Digital Age (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Takahashi
2. 発表標題 Is There a Shift from EFL to ELF in Japan?
3. 学会等名 American Association for Applied Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Takahashi
2. 発表標題 The Diversity of English Users and Uses in English Textbooks: A Comparative Analysis across Time in Japan
3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 22 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Takahashi
2. 発表標題 English as a Lingua Franca in English Textbooks: A Comparative Analysis across Time in Japan
3. 学会等名 The 11th International Conference of English as a Lingua Franca (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村優子
2. 発表標題 グローバル教育の視点から考えるリンガフランカ(共通言語)としての英語教育: 大学英語模擬国連参加学生の事例から
3. 学会等名 関係性の教育学会(EPA)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Ikuta
2. 発表標題 Linking People in Multilingual Contexts: Possibilities and Limitations of English as Lingua Franca
3. 学会等名 18th World Congress of Applied Linguistics (AILA 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Reiko Takahashi
2. 発表標題 Is There a Shift from ELF to ELF in Japan? : A Comparative Analysis of English Textbooks
3. 学会等名 American Association for Applied Linguistics 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 生田祐子
2. 発表標題 英語での模擬国連導入事例
3. 学会等名 第6回模擬国連ワークショップ（東京大学教養学部附属教養教育高度化機構アクティブラーニング部門主催）（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Ikuta, Y., Takahashi, R. & Kitamura, Y.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Cambridge Scholars	5. 総ページ数 225
3. 書名 Model United Nations Simulations and English Lingua Franca: New Perspectives on Best Practices(D. Tatsuki & L. Zenuk-Nishide (Eds.))	

1. 著者名 Ikuta, Y., Takahashi, R. & Kitamura, Y.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Cambridge Scholars	5. 総ページ数 17
3. 書名 Model United Nations Simulations and English Lingua Franca: New Perspectives on Best Practices(D. Tatsuki & L. Zenuk-Nishide (Eds.))	

1. 著者名 Donna Tatsuki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Cambridge Scholars	5. 総ページ数 -
3. 書名 Model United Nations and English as Lingua Franca	

1. 著者名 Reiko Takahashi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Taiheisha	5. 総ページ数 10
3. 書名 English Spoken by Japanese People, Chapter 12, in Kaleidoscopic Views of Japan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 礼子 (高橋礼子)  (TAKAHASHI REIKO)  (30613913)	学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授    (32699)	
研究分担者	北村 優子  (KITAMURA YUKO)  (80783844)	長野大学・企業情報学部・准教授    (23602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------